

IOG産学連携プロジェクトの研究成果は、SDGsの目標達成にも貢献します

- 東京大学は、全学の広い分野でSDGsを目指したプロジェクトを推進し、大学全体のアクションとして可視化・発信しています。
- 産業界との連携においては、新たな事業成長に向けた基本的な共通ビジョンとして、SDGsを活用する取り組みも行っています。
(東京大学未来社会協創推進本部HPより)
- IOGでは、産学連携によって「[17 パートナシップで目標を達成しよう]をはじめとして、医療・福祉・教育・経済・働きがい・産業・技術基盤・まちづくりなどのSDGsの目標達成に寄与することを目指しています。



東京大学 SDGsPROJECTS
<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/fsi/ja/projects/sdgs/>

IOGの沿革

ジェロントロジー(Gerontology)とは、個人に加齢と社会の高齢化についての総合的な学問です。超高齢社会の研究課題に対して、様々な学問分野の幅広い知識を集約して取り組む学際的な学問領域です。東京大学高齢社会総合研究機構(Institute of Gerontology: IOG)は、広く急速に進行する高齢化に伴う諸問題を解決するため、2009年に日本で初めての学際的なジェロントロジー(老年学)の研究拠点として設置された組織です。

- 2009年 高齢社会総合研究機構 設置
産学連携ジェロントロジー・コンソーシアム
- 2011年 産学連携ジェロントロジー・ネットワーク
- 2020年 高齢社会総合研究機構 連携研究機構に改組
ジェロントロジー産学連携プロジェクトに再編

IOG産学連携プロジェクト参加のご案内

■ジェロントロジー産学連携プロジェクトの法人会員は3つのコースがあります

個別共同研究 : 東京大学と個別共同研究契約を締結し、社会実装を目指します。本プロジェクトのすべての活動に参加できます。東京大学への派遣を受け入れています。

ジェロントロジー・アカデミー : アカデミーのカリキュラム(前期・後期)、各種研究会、ジェロネットの活動に参加できます。

ジェロントロジー・ネットワーク : 全体会・交流会(サロン)に参加できます。

*参加企業は1社あたり最大5名まで登録可 *年次活動報告書を発行...→

■参加料(年度)

- 個別共同研究** : 個別協議により決定
- ジェロントロジー・アカデミー** : 100万円/年度(税込)
- ジェロントロジー・ネットワーク** : 30万円/年度(税込)

■申込方法/問い合わせ先

申込は随時受け付けています。下記までご連絡ください。
東京大学ジェロントロジー産学連携プロジェクト
E-mail gero-pro@iog.u-tokyo.ac.jp



東京大学で学ぶ、繋がる、共創する!

豊かな超高齢社会の創造を目指す
東京大学高齢社会総合研究機構が
ジェロントロジー産学連携プロジェクトへの
参加企業を募集しています。



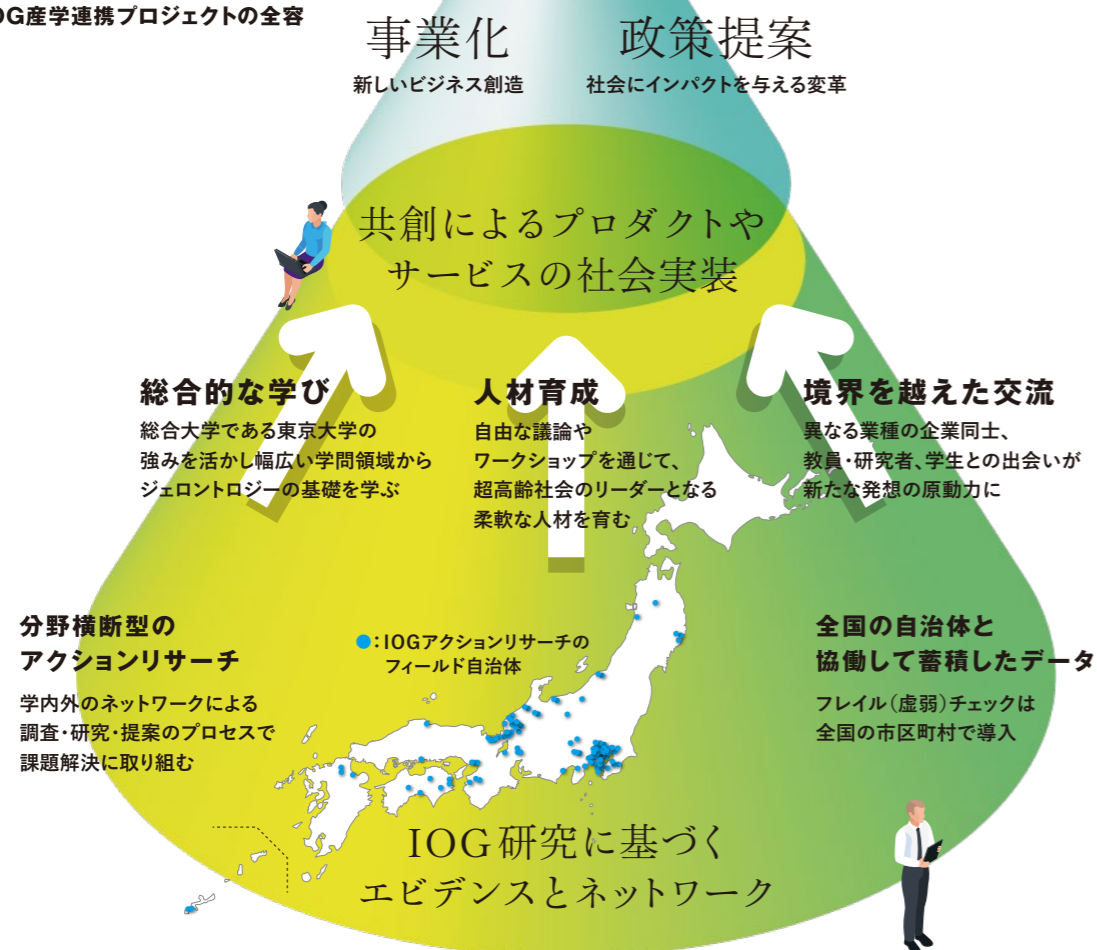
「人生100年時代」と言われる中で、どの世代の方々にも日々の生活を通して生きがいと幸せを感じてもらえる人生を送って頂きたい。また、老いは避けられない中で、健康長寿を実現し、個々の国民が生ききった人生を送れるようにするために、どのように地域社会を再構築する必要があるのでしょうか。我々、東京大学高齢社会総合研究機構 (Institute of Gerontology : IOG) は、分野横断型の総合知を活かし、全国の数多くのモデルフィールドを持ちながら課題解決型実証研究 (アクションリサーチ) を展開しております。その多様な研究活動の中心的役割を担っているのが『ジェロントロジー産学連携プロジェクト』です。

この産学連携プロジェクトは、産業界と大学のパートナーシップのもと、変化する (少子化も含む) 超高齢社会の中で、地域社会およびそこに住む国民一人ひとりのあるべき姿の将来ビジョンを描き、新たなビジネスモデルの創出を狙っていくものです。多くの業態の企業関係者に参集いただき、交流を深めネットワークを構築し、総合的な知識を体系的に体得して、エビデンスに基づく新たなビジネスチャンスを経営的に狙っていくものです。さあ、われわれ東京大学の研究者達との協働により、最先端の社会実装やビジネスモデル創出を取り組みましょう。そして、次なる時代のステージを一緒に創造してみませんか。

東京大学 高齢社会総合研究機構 機構長
東京大学 未来ビジョン研究センター 教授
飯島 勝矢



■東大IOG産学連携プロジェクトの全容

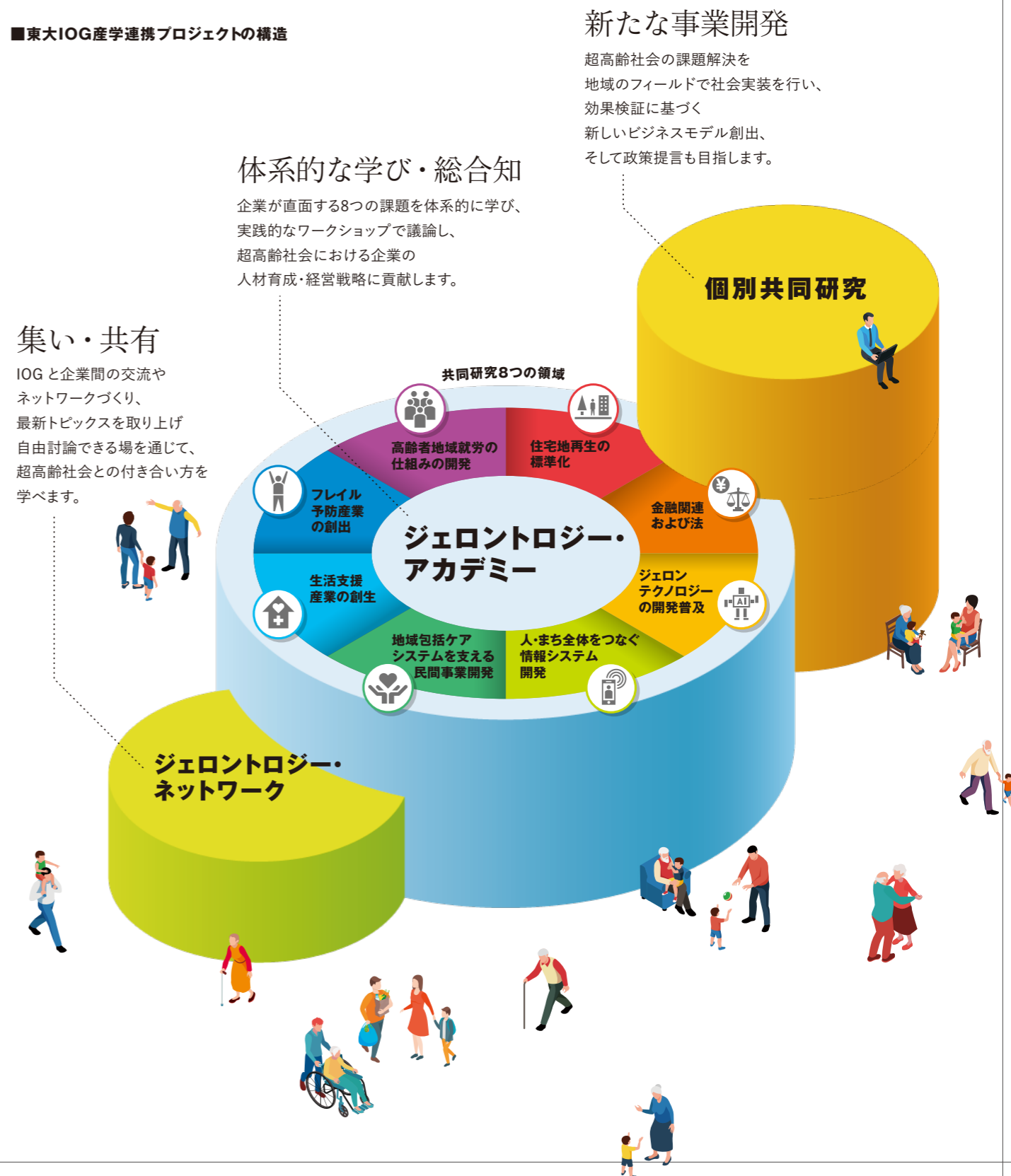


■IOGの産学連携プロジェクトが参加企業にもたらす価値

IOGは豊かな超高齢社会を目指して社会システムのイノベーションや新たなライフスタイルへのシフトを実現すべく学際的な調査・研究に取り組んできました。「最先端の総合知」が境界を超えて結集し、全国各地の自治体と協働して行っている課題解決型実証研究 (アクションリサーチ) の成果は、IOGの大きな資産です。IOGの産学連携プロジェクトに参加する企業は、ジェロントロジーという総合的な新しい学問を学び、まさに地域実装も含んだアクションリサーチの現場を体験し、新規のビジネスモデル創生にチャレンジする機会を得ることができます。本プロジェクトでの協働して挑戦は、超高齢社会において成長を持続し、事業を通じて社会に貢献しようとする企業に大きな価値をもたらすことは間違いありません。

IOGの産学連携プロジェクトは、それぞれの企業様のニーズに応じて、3つのステージから選ぶことができます。東大教員と交流し、分野・業種の枠を超えた企業間のネットワークを生む「ジェロントロジー・ネットワーク」。学問分野を越境する8つのテーマから超高齢社会に取り組む「ジェロントロジー・アカデミー」。さらに、研究の社会実装・効果検証により政策提言までをも目指す「個別共同研究」では、個々の企業様の課題に沿って研究テーマを設定し、より強固なパートナーシップで取り組みます。ネットワークから、アカデミー、そして個別共同研究へとステップアップして、よりインパクトの高い研究開発をとものにできることを期待しています。

■東大IOG産学連携プロジェクトの構造



ジェロントロジー・アカデミーで学ぶ8つのテーマはさまざまなビジネスの創出を加速します

ジェロントロジー・アカデミーは、高齢社会の課題と自社の事業との接点に関心を持つ企業が学習する場です。高齢社会に関する幅広い知の領域にまたがる8つのテーマについて専門家から体系的に学ぶだけでなく、繰り返し議論し、ワークショップを重ねます。アカデミーの参加企業は学際的な視点で超高齢社会を捉え、自社のビジョンの方向性を見出し、新たなビジネスチャンスを創り出し、超高齢社会のエキスパートとして事業の中核を担う人材を育成することができます。

高齢者地域就労の仕組みの開発



高齢者就労と生涯現役社会の実現への社会的課題解決に向けたロードマップ作成を目指します。生涯現役社会の新しい働き方を開拓するための具体策について討議します。

フレイル予防産業の創出



東大IOGのエビデンスの蓄積と産学連携の先進事例を学び、各社の強みを生かして国民に向けた啓発を強化し、幅広いフレイル予防産業を展開するための方策を探りながら、健康長寿社会の実現を目指します。

生活支援産業の創生

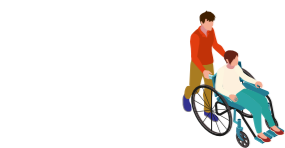


社会的な需要が高まる高齢者の生活支援サービスのビジネスモデル創出における課題を明らかにし、解決のためのアイデアを具体化します。

地域包括ケアシステムを支える民間事業開発



高齢者が最後まで自分らしい人生を送るために、フレイルの段階に合わせたサービスを地域のインフラとして提供できる地域包括ケアシステムを展望します。



住宅地再生の標準化



老朽化、空き家が問題となっている住宅地を「持続性をもつ住宅、住宅地」に変えるため、フィールド研究や地域課題共有から産官学民で解決の道を探り出します。



金融関連および法

人生100年時代の高齢期には、金融と法に関する継続的かつ包括的な支援体制が不可欠です。成年後見、信託、リバースモーゲージ等を用いた、見守りと生活支援の新しいあり方を構想します。



ジェロンテクノロジーの開発普及

生きがいのある自立・自律生活を支え、高齢期のマイナスをプラスに転換する技術やシステムを探求し、経済と生きがいを両立するICTやロボット活用を学びます。



人・まち全体をつなぐ情報システム開発

高齢者の「暮らす・繋がる・働く」などの行動を支えるために、ICTを用いた情報システムが果たすべき産官学民の役割について討議します。

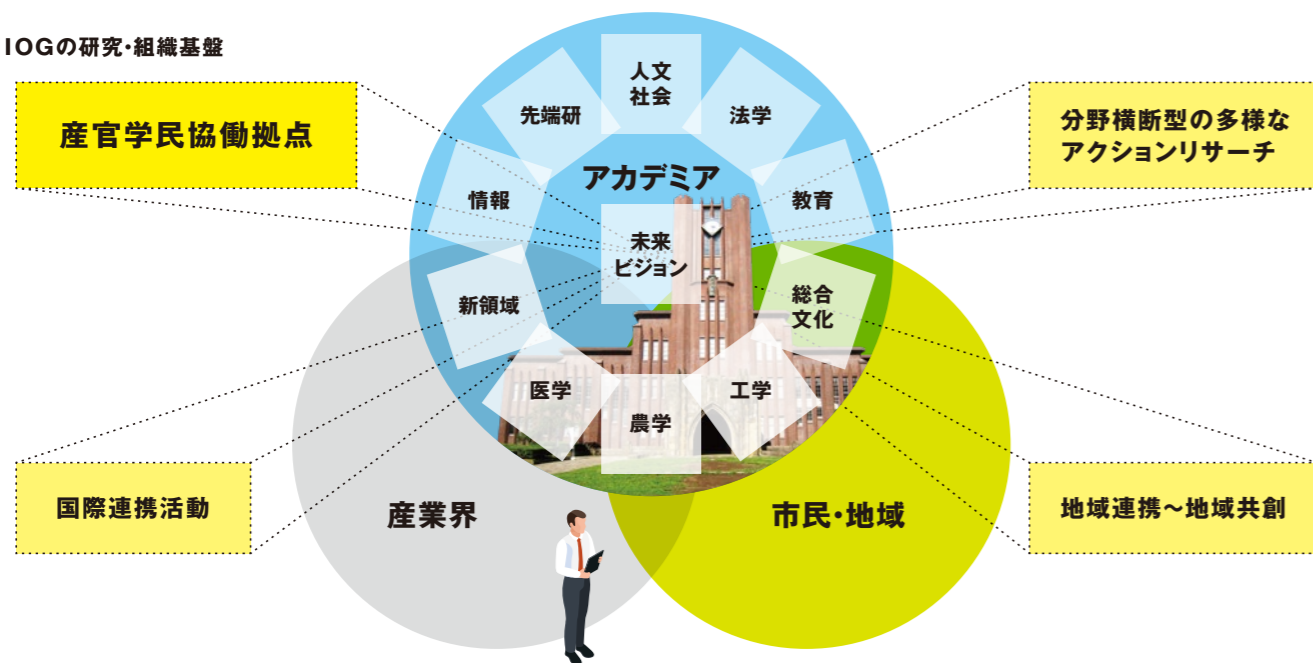


■ジェロントロジー・アカデミーの実践的なワークショップ
 ジェロントロジー・アカデミーの学びは、座学とグループ討議を組み合わせたアクティブなプログラムです。毎月8つのテーマが提示する社会課題について、最先端の知をインプットした後、ワークショップで具体的なビジネスモデルを討議し、解決策を導き出します。このプログラムで業種や分野の異なるメンバーと、企業内の教育研修とは異なる人材育成効果を期待できます。

IOGは、オール東大でジェロントロジー（老年学）をリードしています

IOGはジェロントロジーにおけるアカデミアと産官民の協働を実現するネットワークの核として機能しています。多様な学問領域を融合した研究基盤を生かして、全国のモデル自治体と協働して社会課題の解決に向けた実証研究（アクションリサーチ）を行うなど、その活動は多くの成果を上げてきました。それらの研究成果を社会に還元することにより、SDGsの目標達成やSociety5.0の実現に貢献し、持続可能な社会の形成を目指しています。

■IOGの研究・組織基盤



■ジェロントロジーの最前線で未来と向き合うアカデミーの担当教員をご紹介します

- | | | |
|---|--|--|
|  <p>飯島 勝矢
高齢社会総合研究機構構長
未来ビジョン研究センター教授
専門：老年医学、在宅医療、
虚弱予防、医学教育</p> |  <p>伊福部 達
高齢社会総合研究機構
先端科学技術研究センター客員研究員
専門：生体工学、福祉工学、
音響工学</p> |  <p>孫 輔卿
高齢社会総合研究機構
未来ビジョン研究センター
特任講師
専門：老年医学</p> |
|  <p>大月 敏雄
高齢社会総合研究機構副構長
工学系研究科建築学専攻教授
専門：建築計画、住宅計画</p> |  <p>廣瀬 通孝
先端科学技術研究センター特任研究員
サービスVR寄附研究部門特任教授(兼任)
専門：システム工学、人工現実感、ヒューマン
インターフェース、メディア関連技術</p> |  <p>田中 友規
高齢社会総合研究機構
特任助教
専門：老年医学、健康マネジメント学</p> |
|  <p>秋山 弘子
高齢社会総合研究機構
未来ビジョン研究センター客員教授
専門：老年学</p> |  <p>二瓶 美里
高齢社会総合研究機構
新領域創成科学研究科准教授
専門：老年学、ウェルビーイング、
アクセシブルデザイン</p> |  <p>コスタンティーニ ヒロコ
高齢社会総合研究機構
未来ビジョン研究センター特任助教
専門：老年学、ウェルビーイング、
ジェンダー、家族学</p> |
|  <p>辻 哲夫
高齢社会総合研究機構
未来ビジョン研究センター客員研究員
専門：在宅医療、ケア政策、
社会保障政策</p> |  <p>檜山 敦
高齢社会総合研究機構
先端科学技術研究センター特任教授
専門：複合現実感、人間拡張工学、
ジェロントロジー</p> |  <p>税所 真也
人文社会系研究科社会学講座助教
専門：成年後見制度、社会学</p> |

担当分野：  高齢者就労 フレイル予防 生活支援 医療・介護 情報・システム ジェロントロジー 金融・法 まちづくり

共同研究企業のご紹介

IOGは、事業を通じて高齢社会の課題解決を志す企業と共同研究を行っています。共同研究に参加している企業はITや流通、住宅メーカーなど、業種も規模もさまざまです。複数の研究に関わる企業もあれば、企業同士が連携して一つのプロジェクトを推進することもあります。通常の企業活動では難しい地域での導入実験や自治体の協力、異分野のネットワーク構築など共同研究の収穫を糧に、新たなビジネスモデルの創造が始まっています。

イオン株式会社 [研究テーマ：お客様のタッチポイントとして多様なフレイル予防サービスを届ける]

当社は消費のボリュームゾーンである団塊の世代の高齢化に対して、どのように事業を展開すべきかを考えてきました。IOGとの共同研究をスタートしたのは、2016年に講演を聞いてフレイルについて知ったのがきっかけです。コロナの影響で、店舗での実証実験が行えない間に、アカデミーで7つのテーマを学んだのはいい経験でした。今後は産官学の連携によりフレイル予防の認知度を高め、事業との新たな接点を探ります。

…………… グループエリア戦略チーム 乾 裕之氏



(50音順)

株式会社NTTドコモ [研究テーマ：地域包括ケアにおけるICTインフラの整備]

高齢者が安心して地域に住み続けるために、最適なICTシステムを開発・提供し、日本のデファクトスタンダードとすることが共同研究の目的です。当社単体では乗り越えられないことも、IOGなら産官学民の枠を超えて同じ目的や情熱を持つ人が集まっているので、迅速に協働体制が構築でき、課題解決に向けた力強い取り組みを推進できます。IOGで得られる知見や人脈と、当社の先端テクノロジーを自身が繋ぐことで、誰もが最期まで豊かな人生を生き切る事ができる社会の実現を目指します。…………… 5G・IoTビジネス部 ソーシャルイノベーション推進 榊原 拓磨氏

キューピー株式会社 [研究テーマ：フレイル予防の3つの柱の活動を通じて食と健康に貢献したい]

IOGが提唱する「栄養・運動・社会参加」健康長寿の3つの柱に共感したことが縁になり、共同研究に参加しました。主に「食の在り方研究会」の事務局として研究の実践に取り組んでいます。フレイル予防の重要性を訴求する売場作りの事例が出来たことは、今後の販促活動を考えるうえで大きなヒントになりました。超高齢社会に向き合って、さまざまな企業が利害を超えて連携できるのは、IOGならではのメリットだと思います。

…………… 経営推進本部 食と健康推進プロジェクト 内山 奈美氏



サンスター株式会社 [研究テーマ：オーラルフレイル予防により生きるための原点である「食」を守りたい]

共同研究の目標は、信頼できるオーラルフレイルのエビデンスに基づいた商品開発による、新たな市場の開拓です。IOGとの共同研究と並行して有識者会議の成果をマンガ本にして出版するなど、認知向上にも取り組んでおります。「食」は生きるための原点であり、かつ生活の中の楽しみでもあります。オーラルフレイル予防を国民運動にして、最期まで笑顔で美味しく食べられることが当たり前の中になるように、産業界として取り組んでいきたいと考えています。…………… 研究開発本部 永谷 美幸氏



大和ハウス工業株式会社 [研究テーマ：まちづくり標準化研究会]

高齢化が進む郊外型の戸建て住宅団地の再生に取り組んでいます。社会課題の解決に繋がる有意義な研究ですが、まちづくりには幅広い分野の知見と産官学の連携が欠かせません。IOGとの共同研究なら、自治体や他企業との連携を実現し、分野横断的な知のネットワークにアクセスできます。住民の方々の理解を得るにも、東京大学の信頼感は大きなプラスです。いま進めている団地の再生を成功事例として、全国展開を目指します。…………… ヒューマン・ケア事業推進部 田中 紀之氏

株式会社フードケア [研究テーマ：カムカム健康プログラムにより豊かな食生活をお届けしたい]

当社は病院・介護施設向けの介護医療食品メーカーとしてシェアを伸ばしている社員数50名ほどの中小企業です。科学技術振興機構(JST)の産学連携研究事業によって生まれた「カムカム健康プログラム」によりフレイル予防効果が認められました。現在IOGとの共同研究を通して、社会実装によるさらなる検証をしながら、自治体への試験的導入を行っています。我々の「カムカム概念」の普及により、高齢者を含む全世代の健康長寿延伸に貢献いたします。…………… メディカルフード営業部・開発部 高木 麻祐子氏



■詳しいインタビュー内容は、WEBでご覧いただけます。(近日公開予定)